



# 青島の風

青島日本人学校だより  
令和元年8月16日  
校長 金森孝子

## 成長の証



夏の暑さもやや和らいだ8月15日、明るい歓声が校舎に戻ってきました。猛暑と台風の情報に踊らされた夏となりましたが、やる気のある子どもたちの表情に夏の疲れも吹っ飛び、元気づけられる思いがします。

始業式では、「年輪」と「終戦記念日」についての話をしました。

「年輪」は、樹木の横断面に見られる円状の輪のことで、その輪の数は樹齢を表しています。樹皮と木の境にある形成層が、春から夏にかけて大きく生長する部分と、夏から秋に緩やかに生長、冬に休止する部分が、粗と密、色の濃さの違いになって現れることで年輪はでき、樹木の「生長の証」とも言えます。季節の変化のない熱帯雨林の樹木には年輪は見られないそうです。子どもたちには、どの季節の木の生長にも特徴があり、その時々々の生長があるからこそ、木は豊かな年輪を刻んでいること、2学期には夏、秋、冬という3つの季節があり、季節に応じた学習、スポーツ、多くの行事がある、得手不得手にかかわらず、精一杯取り組むことが、自分の力を高め、成長させることになることを伝えました。

また、令和元年2学期スタートが「終戦の日」であることが、とても意味深いことであることも話しました。青島日本人学校の全員が、世界の人々の平和を願い、考えを深められる日にしてほしい、クラスでも話し合ってもらいたい。多くの国家間で、政治、経済など多くの問題を孕んでいる今こそ、未来を担う子どもたちが歴史を直視し学びを深められるよう、今後も働きかけていきたいと思えます。

新たな中期目標「多様性を理解し、自他を尊重しながら切磋琢磨する児童生徒の育成」に向けて、2学期も更に「ち（知恵）・ん（感動・感性）・た（たくましさ）・お（思いやり）」の力に磨きかけられるように、そして年輪のような「成長の証」を子ども自身が実感できるように、チーム青島全体で子どもたちを導いていきたいと思えます。ご家庭でのご協力、よろしくお願ひいたします。

## 学校開放（サマースクール）について

担当 尾崎 亮介

青島日本人学校では、規則正しい生活リズム作り、1学期の学習内容の補填・復習、水泳指導による泳力向上・体力づくりを目的に、夏季休業期間の4日間、学校開放（サマースクール）を行いました。夏休みにも関わらず、半数以上の児童生徒が参加しました。

小学部は図書室で夏休みの課題に取り組んだり、図書室の本を読んだりして自主学習に取り組みました。図書室の落ち着いた空間で学習することで、持ってきた課題を計画的に進めることができたようです。学習の後は、水泳練習を行いました。泳力別に3クラスに分かれ、自分の泳力を伸ばそうと、一生懸命に練習に取り組みました。



中学部は生徒によって各教科の学習の補填や自主学習、水泳練習など、自分に合った計画を立てて学習を行いました。

学校から出た課題だけでなく、自分の興味のあることや苦手を克服したいという目当てをもって、このサマースクールに参加した児童生徒がたくさんいました。そんな子どもたちにとって、このサマースクールは充実した時間になったのではないのでしょうか。



### 【お知らせ】

竹内毛織株式会社様より、アイススカーフを寄贈していただきました。ご家庭に配布いたしましたので、使用方法と使用上の注意をお読みになり、ご活用ください。竹内様、ありがとうございました。



## 中国語学習での取り組み

中国語担当 福留 さゆり

本校では週に1時間、中国語講師と教員の二人体制で中国語の学習指導にあたっています。

小学部1、2年生は、楽しみながら単語の学習ができるように、中国語の歌やゲーム、かるたなどを用いながら、学習を進めています。小学部3年生からは二つの学年が一緒になり、初級と中級に分かれ、自分に合ったクラスで学習しています。初級は「話す」「聞く」ことを中心に日常会話や、生活に密着した内容について学習しています。中級は、「話す」「聞く」に加え、「読み」「書き」能力を身につけるために、文章読解や短文、作文づくりなどを行っています。中学部は、初級、中級クラスに分かれ、テキストを用いて発音や文法を重視しながら学習を進めています。これに加えて、切り絵細工や中国将棋、水餃子やゴマ団子の調理体験など、中国の文化を体験する活動、現地校との交流活動などを行っています。

この中国語学習での取り組みが、子どもたちのコミュニケーション能力を高め、更には中国文化への興味と理解を深めていくきっかけになると幸いです。学習の成果を、1階職員室横の掲示板に掲示してありますのでぜひご覧ください。



## 避難訓練と年間指導について

緊急安全担当 尾崎 亮介

本校では、年間4回の避難訓練を行っています。領事館や理事会、PTAなど関係機関とスムーズな連携をとり、より安全に、そして迅速に避難することが必要と考え、学校外とも実際に連絡をとる訓練も含めて実施しています。また、訓練を通して、児童生徒が非常時に自分の身を守るための方法や災害予防に関する知識と実践力を身に付けていきます。

第1回の避難訓練では、授業時間内に地震が発生、その後家庭科室から火災が発生したことを想定の下に行いました。児童生徒は、事前学習で学んだ「おはしもて」（おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない・低学年優先）の合言葉を意識しながら、安全に素早く、また、臨機応変に避難することができました。第2回目では、学校内に不審者が侵入したことを想定し、警備室・職員室と連絡を取り合って児童生徒の安全確保と保護者へ安全に確実に引き渡す訓練を行いました。この訓練では、高学年が低学年を意識した避難、各家庭へのスムーズな連絡方法の確認をすることができました。いつ、どのように起こるかわからない非常時に対して、どうやったら安全に、そして迅速に避難できるか残りの避難訓練や普段の活動の中でも考えていきます。また、校内だけでなく、保護者の方や関係機関との連携もより密にし、安心・安全な学校づくりをしていきます。

